

## 「『塔原遺跡』を活用した郷土学習活動」の取組

### 1 学校名

天城町立天城中学校

### 2 学年・人数

中学1年生～3年生（計112名）

### 3 日時・場所

- (1) 塔原遺跡についての講話  
平成25年7月7日・天城中学校
- (2) 塔原遺跡発掘体験活動  
平成25年8月22日・塔原遺跡発掘調査現場
- (3) 塔原遺跡の出土遺物と鹿児島本土の遺跡の出土遺物との比較観察  
平成25年11月15日・天城中学校

### 4 活用に取り組んでいる史跡について

- (1) 名称（ふりがな）  
塔原遺跡（とうばるいせき）
- (2) 由来

塔原遺跡は今から約2,500年前の集落跡で、これまでに奄美群島内で最大級の規模のものをも含めた30基に及ぶ竪穴式住居跡が発掘調査によって確認されている。天城町の先史時代を考察する上で非常に貴重な遺跡である。

また、塔原遺跡周辺からは、佐賀県伊万里市腰岳産の黒曜石及び黒曜石製石器が多く採集されており、先史時代における北部九州との交流を考察する上でも、非常に貴重な遺跡で、平成25年11月26日に天城町指定史跡として指定された。

- (3) 構成等

天城町教育委員会では、平成24年度から塔原遺跡の発掘調査を実施し、その範囲及び内容を確認し、町内の児童・生徒に塔原遺跡について理解を深めるために文化財担当者による説明会、発掘体験活動及び出土遺物観察活動等の普及啓発活動を実施している。

### 5 保存会や地域との連携の具体

塔原遺跡は、地域住民の向井一雄氏による長年の塔原遺跡周辺での考古資料の採集活動によって発見・周知されていた。この向井一雄氏に講話や発掘体験活動などの際に協力いただいて、塔原遺跡の特徴や、塔原遺跡を発見した当時の状況について説明していただいた。

また、天城中学校の協力で日曜参観や授業でも塔原遺跡について説明する機

会を得ることができた。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

塔原遺跡について説明するだけでは、生徒が深く理解できないため、様々な体験を交えながら、塔原遺跡について理解を深めてもらった。

遺跡についての講話は、実際に火起こしや黒曜石を使用して肉や野菜を切るなどの体験活動を交えながら行った。

発掘体験活動では、実際の現場で竪穴式住居の発掘調査を体験するとともに、遺跡周辺を散策しながら、周辺地形や塔原遺跡に暮らしていた人々の生活について、向井一雄氏の協力のもと説明を行った。また、この発掘体験活動の様子を町のケーブルテレビにて放映し、生徒たちと保護者や地域の人々が塔原遺跡について話し合う機会を設け、伊関への興味・関心を高める工夫も行った。

出土遺物の観察活動においては、天城中学校での社会科授業で、鹿児島県立埋蔵文化財センターから借用した県本土の遺跡の出土遺物を教材として活用した。塔原遺跡の出土遺物を持ち込み、それぞれを比較しながら観察させることで、塔原遺跡の出土遺物の特徴をより理解しやすくするよう工夫した。

## 7 取組の様子



【塔原遺跡についての講話（天城中学校）】



【発掘体験活動】



【向井一雄氏による塔原遺跡の説明】



【塔原遺跡出土遺物観察】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### (1) 塔原遺跡についての講話（天城中学校）

- ・ 修学旅行の時に九州国立博物館で、塔原遺跡の土器や石器を見たが、このような重要な遺跡であるということが分かってよかった。（生徒）
- ・ 内容が少し難しかったが、塔原遺跡を通して、徳之島の歴史を学べてよかった。（教職員）

### (2) 塔原遺跡発掘体験活動（塔原遺跡発掘調査現場）

- ・ 土の中から、土器などが出てくるのに驚いた。（生徒）
- ・ このような遺跡が身近にあることを知ることができた。（生徒）
- ・ 生徒たちが実際に発掘体験活動をとおして、昔の歴史に触れることはいいことだと思う。（保護者・地域）

### (3) 塔原遺跡の出土遺物と鹿児島本土の遺跡の出土遺物との比較観察（天城中学校）

- ・ 鹿児島県本土と徳之島の土器が全く違う形や文様であり、地域ごとに土器の形や文様が異なることが分かってよかった。（生徒）
- ・ 石斧にも様々な種類、用途があることが分かってよかった。（生徒）